

【資料3】

2020年度

大連日本人学校

ICT 実践報告資料

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（安藤久美子） ◆児童生徒（ 小学部 2年 15名）

授業形態 【選択】	① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践	①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。
活用した アプリ・機器	Ding talk・WeChat・PC・タブレット	
【教科】 ◇ねらい	◇オンライン授業中の児童や隔離期間に授業に参加した児童に対して課題提出や授業ノートの確認のために活用。	
活動の流れ （概要）	(1) 授業で書いたノートや宿題の写真データを保護者に WeChat で担任に送ってもらう。 (2) 担任はタブレットとペンシルを使用して、データに直接採点やコメントを書き込み、保護者に返信する。データに書き込む際には ipad の写真のマークアップ機能を使用した。	
感想① （準備）	○機器さえそろっていれば、採点やコメントは通常通り行うことができる。	
感想② （実施中）	○データで日々の宿題等を提出してもらうことで、児童の学習定着度を図る材料とすることができた。 ○ペンシルを活用することで、今まで通りの採点やコメントの書き込みをすることができ、子どもたちの学習のモチベーションを少しでも保つことができた。 ○データの提出については、課題を送ったり、オンライン授業を行っているDingTalkで行うこともできたが、DingTalkがPCにインストールされているため、写真データを送るのに手間がかかる家庭もあったため、課題の提出と返却 WeChat を使用した。	
感想③ （評価） ※個の見取り	○写真データの提出が定着し、保護者から送られてくる児童のデータをオンライン授業中の児童の学習定着度を見取る材料とすることができた。	

備考
その他

- ▲機器がそろっていないと難しい。
- ▲保護者から送られてきたデータを写真ホルダに保存してからの採点になるため、個人アカウントの入ったWeChatやDing Talk、がタブレットにはインストールされていないと難しい。

オンライン・ICT実践報告資料（国語・中1）

◆授業者（北村雅俊）

◆児童生徒（中学部1年12名）

<p>授業形態 【選択】</p>	<p>① 課題（宿題）の提出</p> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p>③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>ZOOM・パワーポイント・PC・TV（モニター）</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>【国語科】「花曇りの向こう」 ◇言動などから登場人物の心情を読み取り、より深く物語を捉える。</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>(1) オンラインの接続確認 (2) パワーポイントによる課題の提示 →画面の共有 「川口君の視点から物語を読み取る」 (3) 課題について個人思考 →「言動＝客観的事実」から川口君の心情を考察する →ZOOMのチャット機能を活用する (4) 話し合いによる考えの交流・深化→教師を通して (5) まとめ (6) 次時の予告</p>
<p>感想① (準備)</p>	<p>○パワーポイントの作成を行った。作成には手間がかかるものの、データとして残るため、今後の実践に活用が期待できる。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>○板書の代わりにパワーポイントを活用することで、効果的な視覚的アプローチ（資料の提示など）ができた。 ▲板書の代わりに画面共有によりパワーポイントを使用した が、画面が切り替わってしまうため「考えの拠り所」として機能したかどうか、効果が不明だった。 ▲話し合い活動を充実させることが難しかった。 ※ブレイクアウトセッションを使用できなかった。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>○モニターを活用して生徒の表情を見ることができた。考えや思いなどについて、ある程度を見取ることができた。 ▲生徒それぞれの学習定着度やわからない部分などの困り感などの詳細を把握することが難しかった。</p>
<p>備考 その他</p>	<p>▲評価・個の見取りに関しては、ZOOMによるミーティング形式の授業には限界があると感じた。 ▲ネット環境の状況が授業に大きく影響してしまう。</p>

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（佐藤静子） ◆児童生徒（ 小学部 6年 12名）

授業形態 【選択】	<p>① 課題（宿題）の提出</p> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p>③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
活用した アプリ・機器	ZOOM ipad
【教科】 ◇ねらい	<p>【算数】「対称な図形」</p> <p>◇線対称・点対称な図形の意味や性質を理解し、図形をかくことができる。</p>
活動の流れ (概要)	<p>(1) 接続確認 あいさつ</p> <p>(2) 課題提示（黒板使用）</p> <p>(3) 図形について話し合い、特徴をまとめる。</p> <p>(4) 必要な名称（算数用語）を確認する。</p> <p>(5) 動画視聴により図形の特徴や名称を確認する。</p> <p>(6) 作図</p>
感想① (準備)	OPC を固定して黒板を使った授業を行った。教科書がない児童には画面共有を使用。
感想② (実施中)	<p>○画面共有の際にも児童からは黒板を見ることができる。</p> <p>○ipad に教科書会社の URL をダウンロードし、線対称、点対称などの図形の特徴、作図の仕方などが見れるようにした。</p> <p>▲実際に児童が作図している様子を見ることができない。</p>
感想③ (評価) ※個の見取り	<p>▲作図したノートをウィチャットの画像データで送ってもらった。</p> <p>実際に作図しているところを見ることができないので、必要な指導ができなかったと感じた。</p>
備考 その他	<p>○算数の場合、計算単元はオンラインでもある程度理解を深めたり、習熟練習したりと、学習成果を上げることができると思うが、▲図形をかく、グラフをかくといった単元は見取りができない。</p>

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（菊地 博之） ◆児童生徒（小学部 1年 15名）

授業形態 【選択】	① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践	①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。
活用した アプリ・機器	ZOOM・パワーポイント・PC・モニター	
【教科】 ◇ねらい	【道徳】 ◇友達と仲良くしようとする実践意欲と態度を育てる。	
活動の流れ (概要)	(1) オンラインの接続確認 (2) パワーポイントによる課題の提示 →画面の共有 「絵を見て友達どうして、どんな声をかけ合っているかな」 (3) 課題について個人思考 「友達と仲良くなれる言葉は何かな」 「声をかけられた友達は、どんな気持ちになるかな。」 →ブレイクアウトルームの活用 (4) 話し合いによる考えの交流・深化 →教師を通して (5) 終末	
感想① (準備)	○児童に教科書を配付できていない時だったため、パワーポイントで課題を作成した。	
感想② (実施中)	○ブレイクアウトルームの機能を使うことで少人数グループに分かれて話し合うことができた。	
感想③ (評価) ※個の見取り	○モニターを活用して児童の表情を見ることができた。	
備考 その他		

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（佐藤静子） ◆児童生徒（ 小学部 6年 12名）

授業形態 【選択】	<p>① 課題（宿題）の提出</p> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p>③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
活用した アプリ・機器	ZOOM PC・TV モニター
【教科】 ◇ねらい	<p>【理科】「ものの燃え方」</p> <p>◇ものが燃えるときの空気の動きを観察し、燃焼には空気の入 れ換えが必要なことがわかる。</p>
活動の流れ (概要)	<p>(1) 接続確認 あいさつ</p> <p>(2) 課題提示（黒板使用）</p> <p>(3) 実験に対する予想をノートに書く。</p> <p>(4) 自分の考えを発表し、話し合う。</p> <p>(5) 動画視聴により実験の様子を確認する。</p> <p>(6) 結果と考察を板書 (7)まとめ</p>
感想① (準備)	<p>OPC を固定して黒板を使った授業を行った。その場で児童の 考えを書いていくことができるなど、教室と同じ進め方ができ た。実験は実際に教員が行うよりも動画のほうが分かりやすく 編集されていてよい。モニターに映してそれをPCで見せた。</p>
感想② (実施中)	<p>○個々の予想の交流などは画面越しでもできた。</p> <p>▲動画視聴の際、見えにくい、音声途切れるなどの状況が 個々に発生し、対応ができなかった。</p> <p>▲実験動画は正しい答えの出る実験を見せるため、児童の思 考に広がりや深まりが見られなかった。</p>
感想③ (評価) ※個の見取り	<p>○考察やまとめを書いたノートをウィチャットの画像データで送 ってもらった。内容についての理解ができていない児童も見ら れたが、朱書きをして返却することで補った。</p>
備考 その他	<p>▲学習内容を理解することはできたが、実際に実験器具に触 れることができないので、その点では不十分であり、補習をする 必要があると感じた。</p> <p>▲個々に使用する機器が違うため、接続環境や操作が異なる 点で、指導上の困難が生じた。</p>

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者 (池須安希) ◆児童生徒 (中学部 2年 3名)

<p>授業形態</p>	<p>② オンラインのみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>ZOOM・パワーポイント・PC</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>【音楽科】 「交響曲第5番 ハ短調」(ベートーヴェン作曲) ◇動機が繰り返されたり、変化したりする様子に注目して聴きましょう。</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>(1) オンラインの接続確認 (2) ZOOM の画面共有機能でベートーヴェンの生涯についてまとめた動画を視聴する。 →予め学校ホームページにアップロードしておいたワークシートに記入しながら視聴するように促す。 (3) 動画の内容を、パワーポイント画面を共有しながら確認する。 →ベートーヴェンの生涯について整理する。 (4) 話し合いによる考えの交流 →ベートーヴェンの生涯についての動画の感想を共有する。 (5) 「交響曲第5番 ハ短調」の楽曲構成についてを、パワーポイント画面を共有しながら確認する。 →第1楽章の中にある、第1主題や第2主題などの音源を部分的に流す。(音源を分割編集し、パワーポイント画面に挿入したもの) →教科書の譜例を参照しながら音源を聴くように促す。 (6) 「交響曲第5番 ハ短調」第1楽章を鑑賞する。 →パワーポイント画面に鑑賞のポイントを明記しておく。 →(2)でも使用したワークシートに感想を記入し、以下の方法のうち、可能な方法を選んで提出するように指示する。 ①記入したワークシートをスキャンしたデータをメールで提出 ②記入したワークシートをカメラで写し、その画像をメールで提出 ③記入したワークシートの内容をメールの文書で提出 (7)まとめと次時の予告</p>

<p>感想① (準備)</p>	<p>○パワーポイントは平時より使用していたので、作成手順に関しては困ることはなかった。</p> <p>▲パワーポイント画面が板書の代わりとなるので、譜例を含めた多くの重要な情報を盛り込む必要があり、文書の作成に膨大な時間がかかった。</p> <p>▲平時では鑑賞学習の際に、楽曲の主題などを簡単にピアノで弾いて生徒に示していたが、ZOOMではピアノの音が上手く收音されない(伝わらない)ことが多く、必要な音源を編集した上で画面共有して流す方法を取らざるを得なかった。(音源編集にも膨大な時間がかかった。)</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>○中 2 は当時 3 名だったため、感想の交流などがスムーズにできた。</p> <p>○共有している音源がちゃんと流れているかを逐一確認しながら進めていったため、大きな混乱はなかった。</p> <p>▲動画の共有では一部画面に乱れがあったようだった。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>○モニターを活用して生徒の表情を見ることができ、それぞれの受け答えの様子から、ある程度理解度を把握することができた。</p> <p>○後日メールで送られてきた記入済みのワークシートを評価の材料とした。</p>
<p>備考 その他</p>	<p>○▲歌唱や器楽学習での評価・個の見取りに関しては、ZOOMによるミーティング形式の授業には限界があると感じたが、鑑賞に関しては、細かい声掛けをすることにより、ある程度理解度を把握することができた。</p> <p>○ワークシートを用いることにより、取り組みの過程を残せたうえ、後日評価の材料にすることもできた。</p> <p>○後日実施した期末テストの結果からも、オンラインのみの時に学習した内容に関しても、問題なく理解していることが分かった。</p> <p>▲ネット環境の状況が授業に影響してしまう。(このことを見越して、オンラインのみの時期には、毎時間のまとめのプリントを授業後に、学校ホームページへアップロードしていた。)</p>

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（濱崎 渚） ◆児童生徒（ 中 学部 全学年 21名）

授業形態 【選択】	<p>① 課題（宿題）の提出</p> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p>③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
活用した アプリ・機器	Zoom・パワーポイント・PC・モニター
【教科】 ◇ねらい	【英語科】 表現における「読むこと」「話すこと」の定着を図る。
活動の流れ (概要)	<p>(1) オンラインの接続確認</p> <p>(2) パワーポイントによるインタビューテストの流れの確認 →画面の共有</p> <p>(3) インタビューテストの実際（一人ずつ実施） →パワーポイントを活用し、課題文を提示。 →課題文に関連する英問英答。</p>
感想① (準備)	<p>○パワーポイントを用いたスライドの作成。 対面授業でのインタビューテストが実施できなかったため、具体的にテストの流れが分かるように工夫した。</p>
感想② (実施中)	<p>○生徒の表情を見ながら、生徒の理解度を把握しながら進めることができた。</p> <p>○Zoom のレコーディング機能を活用することで、記録として残すことができ、評価の際に役立った。</p> <p>○生徒一人ひとりの読むことや話すこと的能力を把握する一助となった。</p>
感想③ (評価) ※個の見取り	<p>○レコーディングしたものを用いて、事後学習に活用することができた。</p>
備考 その他	▲ネット環境が授業に大きく影響してしまうことが考えられる。

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（濱崎 渚） ◆児童生徒（ 中 学部 3年 6名）

<p>授業形態 【選択】</p>	<p>① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>Zoom・パワーポイント・PC・モニター</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>【英語科】 食事の会話のスキットを通して、食事の場面で人にもものをすすめる表現やそれに答えたりする表現に慣れる。</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>(1) オンラインの接続確認 (2) パワーポイントによる課題の提示→画面の共有 (3) ブレークアウトセッションを用いたペア活動 →スキットの作成、発表練習 (4) ペア発表 (5) まとめ</p>
<p>感想① (準備)</p>	<p>○パワーポイントを用いたスライドの作成。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>○Zoomのブレークアウトセッションの機能を活用することで、オンライン授業を受けながら、ペアやグループでの話し合い活動をすることができ、他者との意見を交換する機会をもつことができた。 ○各グループの進捗状況を把握することができる。 ▲アイデアが浮かばないグループへの助言のタイミングが難しい。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>○レコーディングしたものをを用いて、事後学習に活用することができた。 ▲生徒が表現したい細かいニュアンスをオンラインで伝えることが難しい場面があった。</p>
<p>備考 その他</p>	<p>▲ネット環境が授業に大きく影響してしまうことが考えられる。 ▲個の見取りに限界を感じた。</p>

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者 (小池浩雄) ◆児童生徒 (中学部 1～3年 12・3・7名)

授業形態 【選択】	① 課題(宿題)の提出 ② オンラインのみの授業実践 ② 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践
活用した アプリ・機器	ZOOM iPad WEB カメラ TV 実験器具
【教科】 ◇ねらい	実験器具のない教室で視聴している生徒も実験室と一緒に実験をしているのに近い感覚を味わえる授業づくり
活動の流れ (概要)	生徒は教室で授業を受けており、授業者は別の理科室で授業を行うという環境。授業者がいる理科室には実験器具があるが、教室の生徒は実験器具がない状態。はじめは実験の意義や実験方法の説明を行い、そののち、演示実験に移った。Webカメラを使用して実験の様子を録画し、その後の授業に生かそうと試みた。
感想① (準備)	基本、演示実験となるので実験の意義をきちんと説明しておかないと、生徒は自分が実験しているわけではないので、学習の動機づけが不十分となる。
感想② (実施中)	人数によって感想が変わる。2・3年生は1年生に比べて少人数のため、実験中でも表情や問いかけ、個々の発言などに注意しながら進めることができた。1年生に関しては、原籍校の人数(35人)に比べると格段に少人数ではあったが、2・3年生に比べてより教師主導に近い形の授業となった。
感想③ (評価) ※個の見取り	ZOOMで行う理科の実験では、7・8人程度までの理科の授業であれば、実験を行いながら個の見取りも十分にできると思うが、それ以上の人数では限界を感じた。これを改善するのに、事前の準備は必要になるが、ロイロノート等の別アプリの活用が必要であると思う。(Ding Talkもこの意味では不十分)
備考 その他	演示実験でも生徒自らが実験に参加しているような臨場感を感じさせるためにはどうすればよいか、研究を進めていく。

①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（松本 智子） ◆児童生徒（ 中学部 全学年 22名 ）

<p>授業形態 【選択】</p>	<p>① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>PC、ZOOM、パワーポイント、DingTalk</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>【保健体育】体づくり運動 ◇体を動かす楽しさや心地よさを味わい、心と体をほぐしたり、体力を高めたりする。</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>(1) オンライン接続 (2) パワーポイントを使って、体を動かすポイントを説明 (3) ストレッチや筋力トレーニングなどを行う ※ 授業後、ポイントや動画を DingTalk で全員に送信 (4) まとめ</p>
<p>感想① (準備)</p>	<p>▲パワーポイントと動画を組み合わせため、準備に時間がかかりすぎて効率が悪かった。次回からは動画を流しながらポイント解説を入れれば、動画だけでも良いと感じた。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>○ストレッチをする場所でさえも確保できない生徒がいたが、上半身だけ動かすなどの工夫が見られた。 ▲動画の共有をしたが、電波状況が悪い生徒はほとんど参加できていなかった。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>▲実技ということで電波状況により、リアルタイムに体を動かしている姿が見られない生徒が多数いた。知識・理解についてはレポートの提出で評価できるが、技能についての評価は難しい。</p>
<p>備考 その他</p>	<p>▲体育分野は体を動かすことがメインのため、オンラインではできることが限られてくる。個人で、あまりスペースを使用せずにできる種目を考える必要性を感じた。</p>

オンライン・ICT実践報告資料（国語・中3）

◆授業者（北村雅俊） ◆児童生徒（ 中学部 3年 7名）

<p>授業形態 【選択】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>① 課題(宿題)の提出</p> </div> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p>③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>Ding talk・PC</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>◇主として、国内でオンライン授業を受けている生徒に対して課題をやりとりするために活用。</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>(1) dingtalk を使用し、課題・テストをPDFデータで送る (2) 生徒が家庭でプリントアウトをする。 (3) プリントした課題・テストを記入し、画像・PDFデータなどで授業者に送る (4) 送られたデータを学校でプリントアウトし、チェック・採点。 (5) チェック・採点したもののデータ化し、生徒へ送る。</p>
<p>感想① (準備)</p>	<p>○データでやり取りができることを想定して取り組むことができたため、授業づくりの幅が大きく広がった。 ▲スキャナーで取り込み、データ化することが非常に煩雑な作業となった。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>▲不正の心配がない課題の場合は問題なかったが、テストについては公平性を図るため、保護者に監視をしていただくなどの配慮が必要となった。 ▲課題提出の遅れなどに対し、保護者を通して指導をおこなうしかなく、家庭の教育力の差が顕著となった。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>○3学年の生徒・保護者は、学習に取り組む意識が高いため、入試に向けた評価を実施することができた。 ▲不正がないかどうか確認しきれない場合、テストの評価はあくまで参考とするしかなかった。</p>
<p>備考 その他</p>	<p>○微信やヤフーメールなど、他のアプリ・メールに比べて、容量の大きなデータを送ることができた。(2GBまで可) ○既読・未読が表示されるため、状況を把握しやすかった。</p>

オンライン・ICT実践報告資料

◆授業者(梅垣美里)◆児童生徒(小学部4年16名日本待機児童1名含)

授業形態 【選択】	① 課題(宿題)の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践
活用した アプリ・機器	【機器】 ・PC2台(板書配信用・教室全体の様子を配信用) ・iPad、iPad pencil ・モニター ・apple TV 【アプリ】 ・Ding talk と Ding talk Lite ・ブック (iPad 内蔵アプリ) ・Good Notes <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ※有線でパソコンを繋いだ方が通信状況が安定したため、その方法をとっている。だが、そうすると2台目のパソコンのネット環境は非常に不安定でつながりにくいという実態がある。 </div>
【教科】 ◇ねらい	【国語科】「世界にほこる和紙」 ◇中心となる語や文を見つけながら読み、筆者の考えやその理由をとらえる。 【算数科】「広さの表し方を考えよう」 ◇既習事項や面積の公式を活用して、L字型の図形の面積の求め方を考え、説明する。
活動の流れ (概要)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%;"> 【国語】 ※黒板使用せず、すべてモニターで(黒板の位置にモニターを設置) 1. めあての確認 2. 読み取り(書き込み) iPad、ペンシル使用 3. 筆者の考えを捉える 4. 「中(はじめ)(終わり)」の部分を読んだ感想をワークシートにまとめる。 6. 次時の予告 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; width: 45%; margin-left: 10px;"> 【算数】※板書・モニター両方 1. めあての確認(板書) 2. 課題の把握 教科書 PDF をモニターで写しながら。 3. 自力解決(ノートに) 4. 全体交流 発表児童のノートを写しながら、発表させる。Good Notes の機能を使い教師が式等書き込み。(発表後にスクリーンショットをとり記録として残り評価につなげる。) 5. ふりかえりと次時の予告 </div>

<p>感想① (準備)</p>	<p>【国語科】 ○教科書をスキャンし PDF 化し、または指導書付属のデータを iPad に取り込んでおくことで、簡単にきれいに、モニターに本文や挿絵を写すことができる。 ○既存のもの(上記データ)では、書き込みのスペースが児童にとって狭いと考え、iPad の音声入力機能を使って別のワークシートを作成した。</p> <p>【算数】 ○図形の提示、課題の共通理解がしやすい。 ○ズームをするだけで A3 以上の大きさで、図形を提示できる。(印刷にかかるコストも削減できる。)</p> <p>【共通】 ○iPad で PDF データを管理し、そのデータに pencil を使って書き込むことは、教材研究にも生かすことができる。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>【国語】 ○休み時間や、本時の始めに本文の板書をしなくて済むため、子どもたちとの時間や机間指導に時間を充てられた。 ○本文に書き込み、その様子をリアルタイムでモニターに写すので今どこを読んでいるのか、視覚支援としても活用できる。 ○Apple TV を使うことで、机間指導しながら、または常に子どもたちの方を見ながら、板書(モニター)や支援ができる。</p> <p>▲モニター画面の大きさにより、拡大にも限界があるため全体が入るように国語の本文を写すのは、子どもたちにとって文字が小さいようも感じた。段落の関係を扱うときには必要だが、児童にとっての見やすさ、授業の受けやすさを忘れないようにしたい。</p> <p>【算数】 ○子どもたちの思考を、画面上に写したり、ペンシルを使って書き込み、実際に図形を変形させたりしていくことで、視覚優位の児童にとっては分かりやすい。 ○カメラを使って、児童の思考を記録しておくことは評価にも使える。</p>

	<p>【共通】</p> <p>▲板書に残す工夫を考えていきたい。(単元にもよる)</p> <p>▲板書写真の代わりに、書き込んだ画面のスクリーンショットをオンライン児童には送信した。だが、リアルタイムで送ること、その活用の実態把握には課題がある。パソコンのカメラでモニターを写したが、見え辛さを考え、途中で板書に切りかえたこともあった。</p> <p>▲一番は iPad の画面やパワーポイントを画面共有できたいが、ネットワークとの兼ね合いなのか、Ding talk では上手くいかない実態がある。またパワーポイントに音声データや動画を組み込んでいる時には、画面共有時の音声や動きに課題がある。また、画面共有をしてしまうと教師の姿(画面共有を実行した人の画面)がオンライン上で見えなくなってしまうので、オンラインの児童にとっては不安材料になってしまう。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>【共通】</p> <p>○授業のねらいは達成できた。</p> <p>○視覚支援ができるので、普段発言しにくい児童も挙手、発言する姿が見られた。</p> <p>○モニターにオンラインの児童の姿を写しながら、授業をすることで、ともに学んでいるという実感は教室にいる児童にも持たせることができる。</p> <p>▲教室にいる児童はワークシート、授業中の発言、感想などで見取りができ、評価もできるが、オンラインの児童の見取りはできていないのが正直なところである。</p> <p>オンラインの児童のために、途中から授業より先に書き込みをしたワークシートを個別に送信する対応も試みた。ノートや課題は、授業後になってもきれいにまとめたり、取り組んでいたりする姿があるが(毎日の課題チェックで判断)、1時間の授業の中で、その児童のねらいとする力を伸ばせたかと言われると正直厳しいものがある。</p>
<p>備考 その他</p>	<p>・教師側がどんな方策や支援を取るかも大事かもしれないが、オンラインの児童に実際に発言を求めたり、声をかけたりする方が、その児童の様子を見取れ、またその子の力を伸ばすのには、有効だと感じている。</p>

オンライン・ICT実践報告資料

◆授業者（ 馬淵奈央人 ） ◆児童生徒（ 小学部 5年 8名）

授業形態 【選択】	<p>① 課題(宿題)の提出</p> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</div>
活用した アプリ・機器	<p>【機器】PowerPoint・大型テレビ・PC・iPad・HDMI ケーブル</p> <p>【アプリ】「Dingtalk」「PowerPoint」</p>
【教科】 ◇ねらい	<p>【総合的な学習の時間】「大連の中の日本」</p> <p>◇大連にある日本企業について調べる。(大連周水子空港)</p>
活動の流れ (概要)	<p>(1)大連以外に在籍している児童に対して、dingtalk でオンライン接続。</p> <p>(2)ホワイトボードを活用して、課題提示。</p> <p>(3)個人でインターネットを活用して、調べ学習。 オンライン児童も、インターネットを活用して、調べ学習。</p> <p>(4)調べ学習でまとめたものを、大型テレビを活用して、全体交流。</p> <p>(5)教師が作成した PowerPoint をプロジェクタで壁に投影。</p> <p>(6)本時の振り返り(ワークシートに記入)</p> <p>(7)次時の予告</p>
感想① (準備)	<p>○PowerPoint の作成で、視覚的に分かりやすくするために、写真のみの作成。</p> <p>○作成時間は30分。教師にも児童にも分かりやすく、見やすい。</p> <p>○データで作成したので、他学年にも活用できる。</p>
感想② (実施中)	<p>○Dingtalk でのオンライン接続は、時間無制限なので、接続の心配がない。</p> <p>▲zoom と違い、接続画面やツールが少なく、不便なこともある。</p>
感想③ (評価) ※個の見取り	<p>○Dingtalk でのオンラインは、何処でも誰とでもインターネット接続があれば、つながられる良さがある。</p> <p>▲ツールが少ないのが、zoom より劣る。</p> <p>▲今後の課題として、デジタルとアナログの活用を併用して、それをいかに上手に活用していくことが課題である。</p> <p>▲インターネット環境の整備が課題である。</p> <p>▲個の見取りについては、ノートやプリントを写真等で送信してもらい確認したが、時間ロスになる。また、テストについては、正しい判断(評価)ができない。</p>
備考 その他	<p>○学校内の先生方の取り組みが何よりの研修になっている。</p> <p>○AG5でのオンライン発表もよい刺激になり、授業に取り入れていきたい。</p> <p>▲校内でできることを、共通理解を図りながら進めていきたい。</p>

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（佐藤静子） ◆児童生徒（ 小学部 6年 9名）

授業形態 【選択】	<p>① 課題（宿題）の提出</p> <p>② オンラインのみの授業実践</p> <p>③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</p> <p>④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
活用した アプリ・機器	Ding Talk
【教科】 ◇ねらい	<p>【国語】「時計の時間と心の時間」</p> <p>◇筆者の主張や意図をとらえ、自分の考えを発表しよう</p>
活動の流れ (概要)	<p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 課題提示（黒板使用）</p> <p>(3) 音読</p> <p>(4) 筆者の主張に対する自分の考えをノートに書く。</p> <p>(5) 発表する。</p> <p>(6) まとめ</p>
感想① (準備)	○教室の児童席の前列中央に PC を固定して黒板を使った授業を行った。
感想② (実施中)	<p>○オンラインの児童も順番に音読に参加した。</p> <p>○意見交流の際も、画面越しの児童をグループに入れての話し合いができた。</p> <p>▲オンラインの児童のノートを見ることできない。</p>
感想③ (評価) ※個の見取り	○対面の児童中心の授業になりがちだが、教室の児童も画面越しの友達に声をかけるなど、意識して学習をすることができた。
備考 その他	○通信状況が悪いなど、自分達もオンライン授業の際に経験しているので、オンラインの児童に対する気遣いができた。

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（佐藤哲也） ◆児童生徒（中学部3年7名）

授業形態 【選択】	① 課題(宿題)の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践
活用した アプリ・機器	Zoom・ロイロノート・PowerPoint PC・iPad・モニター
【教科】 ◇ねらい	【理科】SDGs発表会(世界同時授業) 多種多様な考え方にふれる
活動の流れ (概要)	(1) オンラインの接続確認 (2) 発表(PowerPoint、Zoom、ロイロノート) ※ブレイクアウトセッション使用 (3) 感想・意見の作成(ロイロノート) (4) 感想・意見交換(ロイロノートで共有) (5) まとめ① (6) 他校児童生徒の発表動画視聴(ロイロノート) (7) 他校児童生徒との意見交換(ロイロノート) (8) まとめ②
感想① (準備)	○発表準備の時に、ホテル隔離の生徒とオンラインで授業を進めることができた。 ○作業の続きができること
感想② (実施中)	○ロイロノートの提出箱機能を使い、発表原稿と発表動画を事前に提出したことで、当日の不具合・不測の事態に対応することができた。 ○発表当日は臨時休校だったが、事前に準備していた発表動画を再生することで対応ができた。
感想③ (評価) ※個の見取り	○ロイロノートの「提出箱」「送る」機能を使用することで、個の意見・考えを瞬時に集約することができた。 ○ロイロノートで提出されたものは、いつでも見返すことができるので、ゆっくりと評価をすることができた。
備考 その他	○世界各地の児童生徒と交流することができたことが大きな収穫であった。 ▲通信環境に左右されることが、大きな問題点であった。

①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（百武由里子） ◆児童生徒（中学部2年3名）

授業形態 【選択】	<div style="border: 1px solid green; padding: 5px; display: inline-block;"> ① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> ①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。 </div> ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践
活用した アプリ・機器	Ding Word TVモニター パソコン
【教科】 ◇ねらい	美術 名画の魅力に迫る「最後の晚餐」より 絵画の登場人物になりきり、その仕草から気持ちを想像する。
活動の流れ (概要)	①最後の晚餐に登場する人物13人のうち、自分になりきる人物を決める。 ②2ペアに分かれ、画面上でポーズのアドバイスをしながらスクリーンショットを撮り合う。(3名だったので教員も参加する) ③撮った写真をWordにはりつけ、背景を削除して提出する。登場人物の気持ちになってコメントも合わせて提出する。 ④全ての提出できたら、絵画と同じ背景に教員がはり合わせて鑑賞会を行う。 ⑤鑑賞した感想、振り返りをWordで(Ding上で)提出する。 ⑥提出した鑑賞シートにコメントをつけて、Ding上で返却する。
感想① (準備)	共有用の絵画の写真JPEG、教科書画像PDFを3つ程度、板書。 ○カラー印刷もなく節約できた。
感想② (実施中)	○絵画で見せたい部分をピンポイントで出せるので良かった。 ○スクリーンショットがカメラ代わりになり、加工も可能だったので楽しく活動する様子が見られ、提出もスムーズだった。
感想③ (評価) ※個の見取り	▲今回3人だけだったので、ペアでの会話ができ、聞き取りもできたが、人数が増えると難しそう。 ○Ding上での提出はスムーズでした。メールを見ながら訂正箇所を指示したり、教員が直接修正して送り返したりすることも出来るので良かった。
備考 その他	○登校再開後、仕上がった作品を紙ベースで印刷し、展示することが出来た。

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者 (塚田) ◆児童生徒 (小 学部 4 年 20名程度)

<p>授業形態 【選択】</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">① 課題(宿題)の提出</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">② オンラインのみの授業実践</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;">④ 対面のみの授業実践</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>ZOOM・Ding Talk・TVモニター・スマホ・アイパッド</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>4月～9月 国語・算数・社会・理科・音楽 10・11月 英語 12月 英語・中国語</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>4月～5月 ZOOMでのオンライン授業 6月～7月 ZOOMでのオンライン授業と対面授業 8月 Ding Talkでのオンライン授業 9月 Ding TalkとZOOMでのオンラインと対面授業 10月～12月 Ding Talkでのオンラインと対面授業 ★全ての期間で課題・宿題の提出有り。 ★対面授業が始まってからは、テストも実施。</p>
<p>感想① (準備)</p>	<p>② オンラインのみの時は、基本的にパワーポイントを使用しました。教科書の資料を張り付けて作成しました。宿題を作成し、データ化してパスワードを入力する作業に手間がかかりました。しかし、授業時間を短く設定し、練習問題などは宿題に回せたので、効率がよかったですと思います。(午後の時間を準備にあてられたので)</p> <p>③ 対面・オンライン同時進行の時は、黒板を使用して授業をしたため、事前の準備はオンライン向けの宿題作成と普段の授業準備になりました。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>② ・ZOOMは、パワポの画面上に書き込める機能があるので、非常にやりやすかったです。また、視聴側からも、音声・画像共に質がいいということでした。しかし、Ding Talkは音声・画像共に質が悪く、見づらい、聞きづらいという声がありました。また、Z</p>

OOMと違って書き込める機能がないので、少し不便さを感じました。

・ZOOMでブレイクアウトセッションを使用しましたが、ホストが各グループでの様子を同時に見ることができず、各グループを回っていく感じであまり様子が分かりませんでした。幸い、教師が二人いたので、それぞれで回って指導を入れましたが、意見交換などはタイムラグや音声がしっかり届かない等あり、小学生には難しかったように思います。音読の丸読みや段落読みなどはできたようでした。形として、オンライン上でのグループ活動に取り組めたという点では児童にとっては刺激的で楽しめたようですが、なかなか学習として機能するまでにはいきませんでした。

③

・対面とオンラインの平行授業の時期は、黒板を使用して、Ding Talkで写していましたが、質が悪く、状況によってZOOMに切り替えたりして行いました。中国側がZOOMホストになれない状況でしたが、日本側の教師がホストになって繋ぐことができました。

・教室の児童がオンラインの友だちと一体になれるように、テレビのモニターに常にオンライン児童を写して行いました。日本側の教師と連携して、中国側では授業を、日本側ではオンライン側のトラブル対応、と分担することができました。黒板全体が映るわけではないので、授業をしながらカメラの角度を動かしていくのが大変でした。授業の最後に板書の写真をウィーチャットやDing Talkで個別に送って対応しました。

・日本側の教師が中国入りしてからはZoomが使えなくなったので、Ding Talkでホスト切りかえ等しながらの授業でした。状況によっては全く繋がらなくなるため、こちらで授業をしながら切れてしまった子の接続対応、また現場の児童対応、ウィーチャットでの保護者対応、現場でのランシーバーの対応や昼食前の検温等も行わざるをえず、なかなか授業に集中できない時期でした。

・4年生が一番人数が多く、現場での対応と同時に日本在住の子、隔離中の子が常にオンラインにいる状況で、現場とオンラインの平行実施は非常に複雑でした。しかし、状況を察することができる児童が多かったためか、協力的でクラスとしてのまとまり

	もあったように思います。
感想③ (評価) ※個の見取り	<ul style="list-style-type: none"> ・全体をとおして、オンラインでは個の見取りはなかなか難しいと感じました。テストに関しては家庭の協力が必要で、テスト実施後すぐに送ってくれるわけではなく、宿題や課題も全て送ってもらうと膨大な量になるため、登校後に指定したものだけを提出してもらいました。 ・オンラインでの接続状況によって大きく差が出てしまうのは本当に残念だと思いました。家庭でフォローできる場合はいいですが、親が働いていて祖父母やお手伝いさんだけという家庭もあり、登校してからのフォローが必要だった児童もいました。
備考 その他	

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（佐藤 和彦） ◆児童生徒（ 小学部 3年 5名）

<p>授業形態 【選択】</p>	<p>① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。</p> </div>
<p>活用した アプリ・機器</p>	<p>ロイロノート iPad</p>
<p>【教科】 ◇ねらい</p>	<p>算数「三角形を調べよう」 辺の長さに注目して、三角形を分類する。</p>
<p>活動の流れ (概要)</p>	<p>①課題を把握する。 前時に作成したいろいろな形の三角形を分類する。 ②どのように分類したか、自分の考えをノートにまとめる ③ロイロノートを使用して自分のノートを共有し、友達の考えと比較する。 ④まとめをする 二等辺三角形、正三角形の用語を確認する。 ⑤練習問題をする。</p>
<p>感想① (準備)</p>	<p>私自身がアプリの使い方に慣れているので、ほとんど特別な準備をすることなく授業に入ることができた。iPad が当日の授業で、他学年が使用しているため手元にない可能性があるため、iPad がない場合を想定した授業づくりも考えていた。</p>
<p>感想② (実施中)</p>	<p>子どもたちも普段から使い慣れているので、アプリへのログイン、写真のアップデート、共有画面の使い方はすぐにできた。ノートと iPad を併用した授業なので、ノートに書く時間、iPad を使用する時間を区切ることで、メリハリのある授業を展開することができた。</p>
<p>感想③ (評価) ※個の見取り</p>	<p>ノートを集めることなく、ロイロノート内でノートを評価できるので非常に有効であった。また、練習問題もロイロノートに提出させ、採点をして返却し、満点が取れるまで何度も繰り返し行った。</p>
<p>備考 その他</p>	

オンライン・ICT実践報告資料 形式

◆授業者（佐藤静子） ◆児童生徒（ 小学部 6年 10名）

授業形態 【選択】	① 課題（宿題）の提出 ② オンラインのみの授業実践 ③ 対面・オンラインの両方を含む授業実践 ④ 対面のみの授業実践	①の場合、【教科】【ねらい】の欄に対象となる生徒の状況を記入してください。
活用した アプリ・機器	PC TV モニター	
【教科】 ◇ねらい	【国語】（朝学習の時間、授業開始後5分程度など） ◇ことわざや慣用句を覚える。	
活動の流れ (概要)	(1) モニターにことわざや慣用句の最初を映す。 (2) 続きを考えて答えさせる。 (3) 答えを提示し、意味を説明する。	
感想① (準備)	○慣用句、ことわざのカード(PDF)をPCに入れておく。	
感想② (実施中)	○フラッシュカードのように次々と提示することができる。 ○繰り返し使用できる。	
感想③ (評価) ※個の見取り	▲一斉学習での使用になるため、個別の見取りはできない。	
備考 その他	○モジュール学習としての取り組みになるが、6年生になっても日本での生活経験のない児童にとっては耳慣れない言葉が多いので、ことわざや慣用句は時々取り入れている。	